

# 「良いサイクルの模範に」

～進んで生きる内面の変化～

ネヘミヤ 11:1～3

あなたは礼拝のメッセージをどこで聞いていますか？耳から知識、意識、感情を通すなら、フィルターがわかり神様からの本当のメッセージを受け取ることはできません。真実の恵みから少しでもずれていたら意味がありません。形ではなく心を見られる神様の前で、ネヘミヤのように本当に心が伴っているかを回復していきましょう。

（【ネヘミヤ 11:1～3】までの話のあらすじ）

ヨセフは奴隷として売られましたが、国王の次の立場にまでなりました。そのおかげでイスラエルの民はおびただしい数となっていきました。何代か後のエジプトの王様はその脅威をみて、民に奴隷としての苦役を課していきます。民の救いを示されたモーセは民を率いて出エジプトしていきます。民は目の前の状況が悪くなると荒野で奴隷だった昔の時に戻りたいと、不平不満をぶつけモーセを疑っていきます。肉の欲がむしばんでいき、民は文句ばかりでした。しかし神様はそれでも愛しても導き、カナの地に入っていきます。士師がリーダーとして民を導いていきましたが、民の心は自分たちの王が欲しいと、不満を言い、サウルが王となりましたが大失敗に終わります。次にダビデが王になり、その後ソロモンが王になり、愛する国の中で戦争を起こし国が南と北に分断します。一つは滅び、一つは他の敵国に占領されます。争いは何年も繰り返されますが、それでも神様は民を愛し続けました。そのおかげでイスラエルの町は立ちましたが、城壁が崩されてしまっていたので外から猛獣が安易に入ってきては死人がで、地は荒れ果てていました。そんな中、ネヘミヤはもう一度自分の国に城壁を再建し、人が住み神を待つ国を造りたいと願いました。志が与えられたネヘミヤは、何か月もただ祈り待ちました。いたずらに動き回りませんでした。祈り備えたのです。暗い顔をしたネヘミヤを見た王様は心配しました。なぜなら、ネヘミヤは奴隷という立場でありながらも愛されていたからです。ネヘミヤは志を話し、説得した結果、王様から神殿が再建される為の必要なものが全て与えられ祝福のうちに送り出されたのです。即座に再建されていきました。仲間や外部からたくさんの攻撃に遭いましたが、ネヘミヤは感情的にならずいつも神様を求めました。ネヘミヤ、ヨセフ、ダビデを通して聖書が伝えていることは、どんなリーダーであっても忠実に、愛して祈り、リーダーが祝福されて正しい決断ができるように祈らなければなりません。聖書に「神によらない権威はなく、」ローマ 13:1 と書かれているからです。間違っていないリーダーを裁いてはいけません。目に見える王を立ててほしいと願ったのは、民＝私達です。裁くのは簡単です。私達はリーダーの為に祈るのが仕事です。ネヘミヤは、再建中、敵の間違った情報により、王様に背いていると勘違いをされます。そんな中でも変わらず忠実に仕え、52日間で神殿を再建しました。

イスラエルの民は問題に陥ったことを人のせいにしていきました。6年間耕して、7年目は畑を休むようにといわれていたのに、まして耕した6年目には倍収穫させてもらったにもかかわらず、7年目も休ませず植えました。従わなかった為、連作障害が起り、荒れ果てた結果70年間土地を休ませなくてはならなくなりました。このように人の欲は人生を駄目にします。神様から与えられている欲をコントロールできなくなる時、飢饉に遭います。「罪は戸口で待ち伏せて悪い慕っている。だが、あなたは、それを治めるべきである」創世記 4:7 「欲がはらむと罪を生み、罪が熟すると死を生みます」ヤコブ 1:15

私達は欲を認めコントロールしなくてはなりません。なぜならそこから人生を蝕まれていくからです。満たされないと怒ってしまう事はないでしょうか？あなたの目は「ふしあな」になっていませんか？全体を見ることができるときに屈辱も、侮辱も私たちの人生を築く大切な土台となります。問題、苦しみがあった時、周りのせいだけではなく、自分のせいだけではなく、両方みないといけません。ネヘミヤは、司（リーダー）たちを選び、くじびきにより町とその外に住ませることでした。人間の配慮が入らないようにくじ引きで決められました。

聖書には町に住むように選ばれた司も、外に住むことになった司も名前が記されています。選ばれるときには神様の時があります。

## ① 内側を保たない

当時、エルサレムの中に住むことはとても危険でした。なぜなら外敵から守る城壁が崩されてしまっている為、内側に獣や盗賊が簡単に入り込めるような、とても人が住めるような状況ではありませんでした。しかしネヘミヤは民の司（リーダー）たちを、

エルサレムに住ませていました。司たちがネヘミヤの言うことを聞いてそうしていたのは、ネヘミヤが司たちからも尊敬され、愛されていたことがわかります。王からも、敵国の王からも、民からも、司からも愛されていた人物でした。なぜならネヘミヤはどんな時も進んで率先し自らが行き、何よりその中心が愛だったからです。リーダーとは自らそこに立たなければなりません。私達が良いサイクルに入るためにまず自分の内側を見極めることが必要です。外側ばかりではいけないのです。そして自分の役割を担うためには、屈辱や侮辱に屈することなく、自らが進んで仕えなければなりません。そのために、絶えず神様に祈り自分の内側を聖めていただきましょう。

## ② 自分の思うように！！

リビングライフに「1%も許してはならないもの」という詩がありました。神様に自分の心を縛っているものを訊ねたところ、1%の自分の思うようにしたい欲望を示され、したいようにできる1%をもとめることはイエスが私の主であることを拒むことであり、自分が主人になろうとしていたことを聖霊様によって示された。人間には自我と主イエスによって生きよとする魂の渴望があり、後者で生きていくときに本当の喜びが得られる。その代価として、私達は主を24時間慕い求め、従い、自分の御心を主の御心に合わせていくことである。その時、可能になる。また、全く従うことが出来るためには、徹底した祈りである。（掲載の詩を要約）

1%にでも思い通りにしたいという思いが危険なのは、思い通りにならないと相手を殺してしまふからです。欲というのは底知れぬ罪の縄目です。欲はがん細胞のようにひろがっていき、人間はそのひろがり制することはできません。この欲の為に、私達は多くの物を失っていくのです。自分の思うようにならない時、イライラしたり怒ったりしてないですか？これが1%も許してはいけない事なのです。自分の欲をコントロールしなくてはなりません。そして、私達の「納得」も必要ありません。なぜなら私達が見える領域は限られているからです。これが私達の「ふしあな」で、神様の方法は、私たちの方法とはたえず違うのです。イエス・キリストを身ごもったマリヤも、夫のヨセフに起こった出来事も、納得とはかけ離れた出来事でした。しかしそれを信じた時に祝福があり、私達の働けない領域でなされる事こそが神様の奇跡なのです。主と共に生きておられることがわかり、そこに神様の計画が成し遂げられるのです。納得は不要です。信じていくときに、必ず失望させられることはありません。イエスは彼女に言われた。「もしあなたが信じるなら、あなたは神の栄光を見る、とわたしは言ったではありませんか。」ヨハネ 11:4

## ③ 消極と比較！！

嫌なことをやらないといけない時がありますが、消極的にならないでください。「すると民は、自分から進んでエルサレムに住もうとする人々をみな、祝福した。」ネヘミヤ 11:2

エルサレムの中に住むよう選ばれた1%民と、選ばれなかった民がいました。選挙に落ちたも同然です。選ばれなかった民の思いはどうだったのでしょうか？しかし民は、思いにとらわれることなく選ばれた人々を祝福したのです。その結果、聖書には選ばれなかった民も、名前が書き記されています。ネヘミヤがなぜそのようにしたのかというと、1%の民が中に住み、その他の民が外に住み、中を攻め入られても全滅するのではなく、エルサレムの民が守られるようにしたのです。それぞれが役割を行ったのです。教会の中で消極と比較は悪です。友によって研がれお互いが確かな刃物になっていくのです。「鉄は鉄によってがれ、人はその友によってとがれる。」箴言 27:17 「神のことは生きていて、力があって、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心のいろいろな考えやほかりごとを判別することができます。」ヘブル 4:12

私達が良いサイクルに向かおうとすると必ず私達の罪をつつき、悪いサイクルの方に行かせようとする者がどこかに潜んでいます。惑わされないで、良いサイクルを生み出していきましょう。私達が良いサイクルの模範になっていきましょう！

（要約者・富岡 牧）

（2019年2月17日）